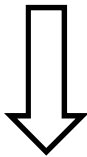


1 教科の到達目標（学習のねらい、身に付けたい力）

- 生活に役立つ技術に関する「基本知識」や「技能」、生活をより良くするための「創造」や「工夫」のしかたを身に付ける。
- 実際に生活に役立つ作品を取り上げ、製作工程に従って作業を進めます。最後まであきらめず完成を目指すことにより、達成感や成就感を味わい、ものづくりの喜びを実感する。

2 年間学習計画と単元（題材）

学期	月	単元名 学習の内容	達成目標(ねらい)
1 学期	4	○ガイダンス	・技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考える。
	5	○材料と加工に関する技術	・材料や加工に関する技術が果たしている役割について理解できる。 ・使用目的や使用条件にあった機能と構造について理解できる。 ・材料の特徴と利用方法を理解できる。 ・材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用できる。 ・構想の表示方法を知り、製作図をかくことができる。 ・部品加工、組立ておよび仕上げることができる。 ・作業を振り返り、次の作品への課題を見つけることができる。
	6	1.ものづくりの工夫と進め方 2.材料 ・木材の特徴	
	7	3.設計 ・構想図 ・製作図	
9	4.製作 ☆幼児用ツールの製作		
2 学期	10		
	11		
	12	完成・提出、まとめ	
3 学期		○生物育成の技術	・生物育成の技術が、生活や社会に果たしている役割について考える。 ・作物や動物などに係る栽培・飼育・育成技術について知る。 ・問題解決の手順を知り、生物育成の技術を用いて解決したい問題を見つけ、課題を設定する。 ・課題に基づき、育成計画を具体化し、安全適切に栽培検査する。成長の度合いなどのデータを記録する。 ・収穫レポートをまとめ問題解決の過程と結果を振り返る。 ・生物育成の技術の見方・考え方について考え、育成技術の適切な活用について考える。
	1	1.生活や社会を支える技術 や身の回りにある技術	
	2	2.栽培や飼育の技術	
	3	3.作物を育てよう	
		4.まとめ	

3. 評価方法

各観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・ものづくりや生物育成に必要で基礎的な技能を身に付け、その技能を安全で適切に活用している。	・作品 ・観察 ・定期考査
思考・判断・表現	・生活と技術の関わりについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに改良し応用、工夫について考えている。	・作品 ・作業進度表 ・観察 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・ものづくりや生物育成に関する技術について関心をもち、生活を充実・向上するために進んで工夫し創造、実践しようとしている。	・授業態度 ・提出物 ・観察 ・定期考査

4 授業の取り組みについてのアドバイス

・技術では何気ない作業の1つ1つの中にも自分で課題を見付け、自ら考えて工夫しながら作業を進めてゆくことが大切です。

例えばのこぎりで板を切断する場合、ただ単にのこぎりに力をこめて、前後に動かすだけではなく、微妙な力の入れ方と抜き方、刃を当てる、角度などさまざまなことをよく考え、試行錯誤をくりかえしながら作業を進めていくことが重要です。

・普段から授業の説明をよく聞き、重要だと思った点があれば、指示がなくても自らの判断でノートに書き留めるなどの積極的な姿勢が必要です。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

・技術科では家庭での予習は特に必要ありません。そのかわりにその日に学習した授業内容をよく思い出して、復習をしっかりするように心がけてください。

6 定期テスト前の取り組みについてのアドバイス

・技術の試験問題には、実習時に説明した作品製作上のポイントや注意点などが多く出題されます。

・授業で使用したプリントを中心によく復習し、教科書の関連する部分にも目を通していきましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

・技術の製作で重要なのは集中していねいに作業に取り組むことです。

この点によく注意し、指示を守って取り組めば必ず良い作品を仕上げることができます。

あきらめずにがんばって取り組んでください。

1 教科の到達目標（学習のねらい、身に付けたい力）

- 生活に役立つ技術に関する「基本知識」や「技能」、生活をより良くするための「創造」や「工夫」のしかたを身に付ける。
- 実際に生活に役立つ作品を取り上げ、製作工程に従って作業を進めます。最後まであきらめず完成を目指すことにより、達成感や成就感を味わい、ものづくりの喜びを実感する。

2 年間学習計画と単元（題材）

学期	月	単元名 学習の内容	学習の達成目標(ねらい)
1 学 期	4	○エネルギーの変換に関する技術	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの変換方法が理解できる。 ・発電方法やエネルギーの変換効率、発電コスト、エネルギーの損失について理解できる。 ・電気回路の構造やその働きについて理解できる。 ・電気機器の保守点検や電気機器の安全な使い方について理解できる。 ・電気機器を安全に利用する仕組みを理解し、配線や電気機器の組み立てができる。
	5	・エネルギーの利用と資源	
	6	・変換と効率	
	7	・電気に関する基礎知識	
	8	・電気機器への利用	
	9	・電気機器の安全な利用	
	10	・保守・点検	
2 学 期	11	☆LED センサライトの製作	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい半田づけの方法 ・回路基板の組立て ・回路の検査 ・本体部の組立て ・作品の検査
	12	○情報に関する技術(2)	
	1	・情報通信ネットワークの利用と情報セキュリティ	
	2	・情報モラルと知的財産	
3 学 期	3	・コンピュータと情報処理	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルの必要性を知り、情報の適正な利用について考えることができる。 ・目的や条件を考えて、作品を設計し、表現を工夫して制作、発表ができる。
	4	☆デジタル作品の制作	
	5		

3 評価方法

各観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・エネルギー変換やコンピュータの活用に必要な基礎的な技能を身に付け、その技能を安全で適切に活用している。	・作品 ・観察 ・定期考査
思考・判断・表現	・生活と技術の関わりについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに改良し応用、工夫について考えている。	・作品 ・作業進度表 ・観察 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・エネルギー変換やコンピュータの活用に関する技術について関心をもち、生活を充実・向上するために進んで工夫し創造、実践しようとしている。	・授業態度 ・提出物 ・観察 ・定期考査

4 授業の取り組みについてのアドバイス

・技術では何気ない作業の1つ1つの中にも自分で課題を見付け、自ら考えて工夫しながら作業を進めてゆくことが大切です。

例えば、材料と加工の方法との関連付けなど、さまざまなことをよく考え試行錯誤をくりかえしながら作業を進めていくことが重要です。

・普段から授業の説明をよく聞き、重要だと思った点があれば、指示がなくても自らの判断でノートに書き留めるなどの積極的な姿勢が必要です。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

・技術科では家庭での予習は特に必要ありません。そのかわりにその日に学習した授業内容をよく思い出して、復習をしっかりするように心がけてください。

6 定期テスト前の取り組みについてのアドバイス

・技術の試験問題には、実習時に説明した作品製作上のポイントや注意点なども出題されます。
・授業で使用したプリントを中心によく復習し、教科書の関連する部分にも目を通していきましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

・技術の製作で重要なのは集中していねいに作業に取り組むことです。
この点によく注意し、指示を守って取り組めば必ず良い作品を仕上げることができます。
あきらめずにがんばって取り組んでください。

1 教科の到達目標（学習のねらい、身に付けたい力）

- 生活に役立つ技術に関する「基本知識」や「技能」、生活をより良くするための「創造」や「工夫」のしかたを身に付ける。
- 実際に生活に役立つ作品を取り上げ、製作工程に従って作業を進めます。最後まであきらめず完成を目指すことにより、達成感や成就感を味わい、ものづくりの喜びを実感する。

2 年間学習計画と単元（題材）

学期	月	単元名 学習の内容	達成目標(ねらい)
1 学 期	4	○生物育成に関する技術 ・生物の育成 ・作物の栽培 ☆葉物野菜の育成(4月下旬) 播種(種まき) ～ 収穫まで	・生物育成の意味と目的、生活における役割を知ることができる。 ・生物育成のサイクルと育成計画を構想し、育成の見通しを持つことができる。 ・生育に適する条件や土や肥料について理解できる。 ・種まき～育苗～定植～収穫までの手入れの仕方などを知り、適切な管理ができる。
	5		
	6		
2 学 期	7	○情報に関する技術(3) ・情報モラルと知的財産 ・プログラムによる計測と制御	・情報を扱う際のルールとマナーなどのモラルを知り、情報の適正な利用について理解できる。 ・知的財産を保護する必要性と利用する方法について理解できる。 ・コンピュータを利用した計測・制御の基本的なしくみが理解できる。
	9		
	10		
3 学 期	11	☆デジタル作品の設計と制作	・機器を制御する適切なプログラムを作成できる。 ・情報を収集し、それらを適切に処理し、発表することができる。
	12		
	1		
	2		
	3		

3 評価方法

各観点	評価規準	評価方法
知識・技能	・生物育成やコンピュータの活用に必要な基礎的な技能を身に付け、その技能を安全で適切に活用している。	・作品 ・観察 ・育成と育成記録 ・定期考査
思考・判断・表現	・生活と技術の関わりについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに改良し応用、工夫について考えている。	・作品 ・育成記録 ・観察 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・生物育成やコンピュータ活用に関する技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで工夫し創造、実践しようとしている。	・授業態度 ・提出物 ・観察 ・定期考査

4 授業の取り組みについてのアドバイス

- ・技術では何気ない作業の1つ1つの中にも自分で課題を見つけ、自ら考えて工夫しながら作業を進めてゆくことが大切です。
例えば、植物に水やりをする際、何に気を付ければよいかなどよく考え、知識をもとにして試行錯誤をくりかえしながら作業を進めていくことが重要です。
- ・普段から授業の説明をよく聞き、重要だと思った点があれば、指示がなくても自らの判断でノートに書き留めるなどの積極的な姿勢が必要です。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・技術では家庭での予習は特に必要ありません。そのかわりにその日に学習した授業内容をよく思い出して、復習をしっかりするように心がけてください。

6 定期テスト前の取り組みについてのアドバイス

- ・技術の試験問題には、実習時に説明した作品製作上のポイントや注意点などが多く出題されます。
- ・授業で使用したプリントを中心によく復習し、教科書の関連する部分にも目を通しておくようにしましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

- ・技術の製作で重要なのは集中していいいに作業に取り組むことです。この点によく注意し、指示を守って取り組めば必ず良い作品を仕上げることができます。あきらめずにがんばって取り組んでください。